

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2090300043		
法人名	社会福祉法人ジェイエー長野会		
事業所名	ローマンうえだグループホーム豊里		
所在地	長野県上田市芳田1871番地		
自己評価作成日	平成28年9月26日	評価結果市町村受理日	平成29年3月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成29年2月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設から8年が経過しました。毎年恒例の夕涼み会は、準備の段階から、地元下吉田地域の方々や御家族、ボランティアの方の協力のもと盛大に実施する事が出来、グループホームをより知って頂いたり、入居者様と地域との交流を深めています。また、大きな行事以外に、普段の散歩や、買い物、地域の方の家の花の見学など、地元の皆様との協力のもと入居者様は生活されています。グループホームを会場とした地元住民向けのサロン活動を開始し1年が経過しました。自治会役員の方の協力もあり、地元の方に楽しんで参加頂いており入居者様との交流の場ともなっています。面会など行いやすい環境を整える事で、御家族の方を始め近所の方の面会もあります。ケアプランは、センター方式を活用し、一人ひとりの今までの生活を大切に、御家族や地域と連携した支援を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高齢者福祉施設や介護事業を複数経営する法人の事業所である。地元の自治会には1軒の家として登録され、掲示板をまわし、地域の連絡網、堰さらいなどの地域の活動にも可能な範囲で参加している。また、サロン活動の場所を提供し、夕涼み会は、地域の夏祭りとして子どもから高齢者まで多数の方が来所されている。職員は、計画的に研修に参加し、研修内容を復命研修として他の職員に伝達し、必要な内容を職員の力量や利用者に合わせて、活用するよう努めている。さらに、職員の他の高齢者福祉施設との交流、地域包括ケア会議への参加、県内の同業者との研修参加や意見交換を通じて、質の向上へも積極的に取り組んでいる。以上の様な事業所と地域とのおつきあい、職員の向上に向けて取組む姿は、利用者、ご家族、さらに地元住民からも信頼を得ており、地元からの入所や待機者の増加となっている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名()			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>ローマンうえだの理念をもととし、事業所独自の理念を作成しそれに基づいた4つのケア方針を重視した生活支援を行っている。グループホーム会議などで理念の共有を行っている。</p>	<p>開設当初からの事業所独自の理念、法人理念を年度始めの職員会等の会議で、共有するように努めている。理念は玄関に掲示、パンフレットにも印刷され、外部の方にも説明に努めている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>月1回のサロン活動では地域の方が来所され体操やお茶など入居者様と交流を深めている。また、運動会や食事会などの地区行事や、草刈り、せんげざらいなどの活動へ参加している。普段は、近所のお宅への花の見学、散歩、買い物などの触れ合いがある。</p>	<p>開所前から、地域の要望を汲んで開設された事業所であり、地域の一戸の家として日常のつきあいが行われている。福祉推進員さんや自治会の役員などの協力により、毎月のサロン活動が事業所で開催されており、利用者とも交流の場ともなっている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議、ボランティアさん、視察など、認知症に付いての啓発に努めている。人材育成として実習生の受け入れを行っている。また、地域包括ケア会議へも出席し地域との連携を図っている。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、日々の入居者様の生活の様子、健康状態、ヒヤリハットや事故の報告を行い、御家族や行政、自治会長、福祉推進委員さんなどから意見を頂き話し合い、サービスの向上に努めている。</p>	<p>運営推進会議は、隔月の土曜日、家族会も同日に開催されている。行政、民生委員、自治会役員、ご家族、職員、時には消防団や消防署が参加し、利用者の様子、事業所の設備、運営など活発に意見交換がなされ、運営の改善に活かされている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議時、日頃の生活を見て頂いたり、意見の交換を行ったり、アドバイスを頂いている。また、事故などの場合は速やかに市へ報告を行い連携を図っている。</p>	<p>運営推進会議へ市から担当課職員の参加、事故などの場合の報告、市の介護保険事業者連絡会への参加など、連携に努めている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束に関する学習会を行い、共有している。また、出たいときに出来るよう思いを尊重し職員が行動や様子をさり気なく見ながら関わる一方、ヒヤリハットからの検証や申し送りにより安全面でも配慮している。マニュアルがあり共有化している。</p>	<p>法人内の年間計画としての研修やマニュアルの確認、何か課題があったときには職員内で検討、解決策の共有など取り組んでいる。利用者それぞれの思いを尊重し、職員同士の連携により、見守り、言葉掛けなどの支援に努力している。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止に関する施設内外への研修への参加や学習会を行っている。また、マニュアルを共有して常に入居者様中心に物事を考え、変化に気付き、随時ケアの見直しを行っている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護に関する外部研修への参加、施設内学習会を行い会議で情報を伝達し共有している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項、契約書の内容を一つ一つ説明をし、聞きたい事に対しては説明している。また、介護報酬改定時など書面の変更時は、個別に説明をし署名捺印を頂き同意、ご理解を得ている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会、面会時など職員から声を掛け、御家族との信頼関係を大切に何でも言える雰囲気作り配慮している。随時意向の聞き取り、年1回本人、御家族へのアンケート調査を行い意見、要望など頂き支援に活かしている。</p>	<p>年に一回のアンケートでは、ご家族に本人にとっての思いを記入して頂いている。玄関に、ご意見受付箱を設置し、家族への便りにも掲載しており、直接言えないことも意見が頂けるように配慮している。</p>	
11	(7)	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>申し送り、カンファレンス、グループホーム会議において、職員の意見や要望、思いを聞き話し合っている。必要事項は代表者会議で検討している。また、業務の中で声を掛けて個別に意見を聞く努力をしている。</p>	<p>事業所内では、管理者に意見を言いやすい雰囲気であり、定期的な会議、時には面談なども活用されている。法人の全体との関係でも、管理者は工夫して取組み、反映に努めている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員教育シートを活用し、目標を設定し一人ひとりの仕事の意欲を把握している。また、職員の希望に極力合わせ勤務を組んでいる。休憩室を確保する事でゆったりと休憩できるよう配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ローマンうえだ職員教育プログラムに基づき、グループ別研修の実施、施設内外の研修に参加している。また、資格取得に向けての研修、内部学習会へ参加し意欲向上につなげている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野県宅老所・グループホーム連絡会へ加入し、研修参加、意見交換を行っている。また、認知症の人と家族の会の広報誌の定期購読、地域包括ケア会議へも参加し質の向上につなげている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人、御家族と面接を行い、今までの生活、心身状況を把握するようにし、御本人の不安なことをしっかりと聞いて受け止めるよう努めている。また、担当の介護支援専門員からも情報を得て共有している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御自宅へ訪問し、御家族が求めていること、思いを聞いて把握し、情報もお伝えしながら信頼関係づくりに努めている。また、その情報に付いては職員間で共有をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人や御家族の思い、状況を把握して情報を提供し、ニーズに合ったサービスにつなげるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	パーソンセンタードケアに基づきセンター方式を用い、御本人の立場に立ち、思いを考え、学び、生活の中で共有しながら支えあう関係を大切にしている。買い物、散歩、家事など一緒に楽しみながら行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人の日頃の状態を随時報告し意見交換を行い、御本人と御家族との関係を尊重している。また、家族との情報交換、センター方式で情報を共有し、共に本人を支えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の方が来所されたり、外出時自宅近所の方との触れ合い、自宅への外出、馴染みの美容院やかかりつけ医への受診、今までの御本人の生活を大切に支援を行っている。	ご家族の協力を得て、利用者の馴染みの美容院や外出など、継続する様な支援に努めている。利用者の状況に合わせて、ご家族と一緒に時間が取れるような支援にも取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、食事やお茶、ドライブ、近所への散歩などお互いの気持ちをお聞きし、コミュニケーションが図れるように職員も共に過ごしている。また、入居者様同士の信頼関係を大切にしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方にボランティア(マジックショーなど)をお願いしたりし継続的な付き合いができるよう努めている。また、施設の行事にお招きしたりし交流を継続している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の思いを大切に、御家族からも意見をうかがっている。カンファレンスで、御本人にとって良い支援が出来るよう話し合っている。センター方式シートで思いを探り、支援につなげている。	利用者の表情やしぐさから判断することもあり、利用者に昔の話を語って頂いたり、歌を歌って頂いたり、ご家族からの情報も参考にしながら、様々な角度から検討し本人本位となるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時センター方式シートを御家族に記入を頂き、お話をお聞きし、今までの生活が継続出来るよう支援している。職員も協同してセンター方式の記入を行っている。守秘義務、プライバシーの保護には十分に配慮している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムをセンター方式シートや申し送りを通して把握し、情報を共有し、出来る事、分かることを大切に、その人全体を見てチームで支援している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の言動・表情から思いを探り、面会時や家族会で御家族の思いや意見をうかがいし、検討会議などで意見を出し合い、センター方式シートを活用しながら介護計画を作成している。	計画的な見直しとなるよう、毎月、それぞれの利用者に付いて検討する時間を取り、評価も記録されている。介護計画も毎月の評価を元に定期的に見直し、利用者の変化に合わせての見直しも実施している。日々の記録も、介護計画を確認しながら記録できるような工夫もされている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルにより、毎日の様子、言動、食事、排泄、身体状況を記録し、情報を職員間で共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護ステーション、訪問歯科と契約し連携することで、外部の客観的な医療的視点を取り入れ、質の向上につなげている。また、介護相談員の定期的な訪問により入居者様のニーズの把握に努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で民生児童委員、自治会長、福祉推進委員、行政、地域包括、消防の職員を招き、意見の交換を行っている。年2回の防災訓練では、地元分団の参加、また、地区の行事へも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>御本人、御家族の希望するかかりつけ医となっている。受診に付いては御家族が行い受診前御家族に状況をお伝え情報の共有を行っている。希望時には付き添いを行っている。</p>	<p>利用者が受診するときには個別のノートを活用しており、事業所、御家族、かかりつけ医、契約の訪問看護事業所との情報共有に努めている。歯科は、訪問歯科など必要に応じて連携している。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>申し送り事項がある時は看護師に報告し、指示を仰いでいる。また、訪問看護ステーションとも契約をし、週1回の訪問時や体調不良時など随時報告をし、相談や処置に繋げている。</p>	/	/
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>医療機関へ面会を随時行っている。また、家人、医師との連絡を密にし、入居者様の現状把握に努めている。医師、御家族、本部とも連携をとりながら早期の退院に向けてのアプローチを行っている。</p>	/	/
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>御本人、御家族に終末期の希望を「看取りに関する意思確認書」にその時点での思いを書いて頂いている。また、事業所で出来ることを伝えながら御家族、医師、看護師と情報の共有をしている。</p>	<p>入居時に説明しているが、利用者の状況に合わせて、重度化や終末期に向けた方針に付いてその都度、ご家族や医師、看護師と確認するよう努めている。訪問看護事業所と契約し、週1回の訪問と24時間対応など連携している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>学習会などで、応急手当、初期対応など学んでいる。また、消防署とも連携し、心肺蘇生法、AEDの使用方法など実践力を学んでいる。</p>	/	/
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を年2回(内夜間1回)入居者様と共に実施している。御家族、地域、行政の方にも訓練の様子を見て頂き意見を頂いている。また、消火器の使用方法も消防署より教えて頂いている。日常的に避難路の確認、施設周りの掃除や学習会を実施している。</p>	<p>運営推進会議を活用し地域の方も参加しての避難訓練、夜間想定でも実施している。秋から毎月利用者と職員でミニ避難訓練を開始、複数の避難経路と誘導方法の確認など取り組んでいる。備蓄は法人全体で取り組み、職員会で火災予防に付いても学習している。</p>	<p>毎月の訓練に取り組んでいるが、今後、いろいろな災害(停電、大雪など)を想定し、利用者の安全確保に付いての検討、対策が望まれる。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉掛けを心掛けている。また、月1回の事例検討会の参加やグループ別の研修に参加している。個人情報の保護、守秘義務に付いても十分配慮している。	法人全体の計画的な研修会や伝達講習、法人全体の事例検討会への参加など取り組んでいる。介護記録の置き場所、排泄用品の保管方法など細かな点にも配慮されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩、買い物、近所の方との交流や、食事、また、衣類を選んだりなど、御本人の意思を確認しながら行っている。意思表示困難な方は、表情や仕草から思いを探っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御本人の思いを尊重し、生活のリズムを把握して職員が共に、寄り添いながら支援している。職員一人ひとりが御本人の行きたい所、やりたいことが出来る環境作りを心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院への外出。外出時は、好みの洋服を選んで頂くなどおしゃれや今までの生活を継続出来るよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節、地域の食材を利用し、好みを取り入れたり希望をおうかがいし食事を楽しんで頂いている。また、料理を教えて頂いたり、出来ることを把握し、盛り付け、片づけ、皮むきなど会話しながら共に行っている。	献立は、その日の材料から利用者や買い物に出かけ、希望をおうかがいながら、決めている。季節により、近くの産地直売所に出かけ、野菜の下ごしらえなど利用者のお力をお借りしている。食べる速さも利用者に合わせて会話しつつ、ゆったりとした時間が流れている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	2ヶ月に一度管理栄養士の栄養指導を受け、意見を取り入れている。食事、水分量チェックを行い、不足時には好みを取り入れたり、補助食など摂って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後歯磨きの声掛けを行い、一人ひとりの状況に応じて清潔に努め、環境を設定したり介助している。口腔に異常があるような時は、訪問歯科や家族と連携し受診をしている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>排泄記録やセンター方式シートをもとに、サインを共通認識し、その都度対応している。トイレの場所が分からない方には、自尊心を大切に声掛けや対応を行っている。</p>	<p>トイレのドアには、手書きの張り紙がある。センサーなど機械も活用しながら、一人ひとり、その方に合わせた対応、声掛けや支援に努めている。支援方法が介護計画に記載されており、共通した支援にも取り組んでいる。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>毎日の食事メニューの工夫、午前のお茶の時間に乳製品を取り入れたり、水分摂取にも注意をしている。また、体操や散歩や外出など体を動かすことで予防に努めている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>事前に御本人への意思確認を行い、入りたく無い時は時間や日にちを変え入浴頂いている。一人ひとりの入浴習慣を大切に、御自分のペースで、必要に応じリフトなど使用し安全に入浴出来るよう支援している。</p>	<p>週に2回以上を原則とし、その方のそれまでの習慣に合わせた支援、ゆず湯や菖蒲湯なども楽しんでいる。利用者の思いに寄り添い、御家族の協力で、家に入浴に出かけている方もおられる。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの休息時間を把握し、その時の状況に合わせた支援をしている。室温の調整、布団の調整、音、光などの環境に配慮し安心して、気持ちよく休めるよう支援している。</p>		
47		<p>服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>職員が内容を把握し、情報を共有している。服薬時は一人ひとりに応じた対応で、確実に服薬できたか確認している。また、服薬内容変更時は記録し、症状の変化や情報の共有に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活を参考にし、家事、食事の手伝い、塗り絵、折り紙、新聞、本を読んだり、歌など一人ひとりの力を発揮でき、共に楽しみ張り合いが持てるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調、気候に合わせ、散歩、ドライブ、買い物、自宅への外出など希望に沿った支援を行っている。また、御家族と連携しドライブ、外食、買い物などに出掛けられるよう支援している。	ご家族の協力で馴染みの場所などに出掛けて頂いている。体調や気候に合わせて、希望の場所にも出掛け、その写真が廊下に掲示、お便りにも掲載されている。日常にお散歩に出かけ、近所の方と交流もある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の症状に合わせ、御本人が所持している方がいる。買い物など要望がある時は御家族と相談し、社会生活につなげている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の希望に沿って御家族にも理解を頂き、電話を掛けている。また、御家族からの電話の際はスムーズにコミュニケーションが図れるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話スペースからは中庭や隣のドウ畑、東側からは田んぼが見え、季節感を感じることが出来る。また、季節の花を飾ったり、季節の食材を取り入れ調理を行っている。	高い天井、広く陽当りのよいホールの大窓からは田んぼや落葉樹が見え、季節の変化が感じられる。台所からは料理の匂いがたどよい、車椅子やリフトも利用可能な広さがあり、ご家族、来所者がみえても十分で、ゆったりとした造りの平屋の建物である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	3箇所の談話スペースがあり、ソファ、テーブルがありゆっくりと寛ぐ事が出来る。冬には炬燵を出し寛ぎの空間を作っている。また、花や絵画などを飾り落ち着いた寛げる環境になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた馴染みの物が居室でも使用されている。また、御家族と連携し写真や小物など居心地良く過ごせる空間作りを目指している。	居室はご家族と連携し、馴染みの物がそれぞれ持ち込まれている。事業所備え付けのベッドや木製の棚以外はそれぞれの好みのもので利用しやすいものが持ち込まれている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室など手摺の設置。トイレ、居室の場所が分かるよう配慮したり、夜間トイレの場所が分かるようライトアップしている。本人の環境意識を話し合い環境整備に努めている。		

目標達成計画

作成日：平成 29 年 3月 2日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	毎回違うメニューの体操やお茶のみにより、地域の方々との交流(サロン活動)を通し、地域との連携を深めているが、一人ひとりの内面の部分に付いて、もっとアプローチがあった方が良いのでは。	一人ひとりの想いなど話せる環境を整える。	私の手帳などをもっと活用し、色々な想いなどを共有する事でサロン活動をより深めていく。	12ヶ月
2	35	毎月の避難訓練等訓練を行っているが色々な災害(地震など)も想定しての訓練は行っていない。	本部とも連携し訓練を実施していく。	地震を想定した訓練を本部や他事業所と連携しながら行って行く。	12ヶ月
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。